

『NWEC 実践研究』の発刊にあたって

独立行政法人 国立女性教育会館は平成22年度、新たな研究誌として本誌「NWEC 実践研究」を発刊いたします。

会館の研究誌は、会館創設から20年目にあたる1997年に20周年記念として創刊された「研究紀要」に始まります。2006年には「研究ジャーナル」と名称が変わりますが、年1回の刊行を続け14号を数えました。その延長線上にあるのが本誌「NWEC 実践研究」です。

会館はナショナルセンターとして男女共同参画を学習の面から推進する役割を担っており、研修、交流、情報、調査研究の4つの機能をもち、かつそれらの機能を相互に関連させて事業を行うところに他にない特徴があります。

そのなかで研究誌の目的は、1 会館が行う調査研究事業の成果を発表し、普及すること、2 ジェンダーの視点にたった学習、男女共同参画を推進する実践に関わる学習・研究の進展を目指して、関係する領域の研究者や実践者に発表の場を提供することでした。

この2つの基本にある性格は研究誌創刊以来、共通していますが、状況の変化に応じ、強調するところは変わってきました。女性学・ジェンダー研究は当初は発表の場が少なかったのですが、最近ではジェンダー研究を専門に行う機関や部署も増加し、紀要、ジャーナル等の専門誌の刊行も多くなり、一般の学会誌にも多く掲載されるようになるなど、発表の場が広がりました。ジェンダーに関する研究論文の発表の場を提供するという研究誌発刊の当初の役割は果たしえたと言えるでしょう。今、求められているのは、男女共同参画を推進する実践を進めていくのに必要な研究であり、研究と実践との結びつきが必要とされています。

男女共同参画を推進する学習は、ますます重要になり、女性を核におきつつも広く男性も、そして若年層から高年層まで男女共同参画の理解と行動が求められています。社会状況や生活、意識が複雑、多様になるなかで、キャリア形成、地域社会形成など実践課題が山積しています。こうした状況に対応する実践に結びつく研究、現在行われている実践のなかでの課題解決に結びつく分析研究など多くの研究課題があり、課題に対応できる研究が今求められています。

「NWEC 実践研究」はこうした男女共同参画の視点に立つ実践研究を進めるとともに、広く活用してもらうことを目的として、創刊しました。これは未開拓ともいえる領域であり困難の多い道です。皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

独立行政法人国立女性教育会館 理事長 神田 道子